

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400798		
法人名	医療法人社団聖和会		
事業所名	グループホーム グリーンライフ ヴィラ		
所在地	熊本県玉名郡長洲町宮野2772-18		
自己評価作成日	平成31年3月8日	評価結果市町村報告日	平成31年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木々に囲まれた静かな環境の中でゆっくりと過ごせる雰囲気がある家庭的なホームです。病院、老健が同じ敷地内に併設されており、看護師が週に一度訪問します。薬の不安には居宅療養管理指導に病院併設の薬局から定期的に訪問があります。リハビリについては有明広域リハビリテーション支援センターから理学療法士の訪問があります。栄養面は老健の管理栄養士のアドバイスが受けられます。隣接するデイケアへの清掃活動や家事活動は入居者様の仕事と位置づけ、他者に役立ちたいという気持ちを大事にした取り組みです。心身の生活機能向上に向けて総合的な支援を行っています。お一人お一人の自らの行動を引出し、意欲的に生活できる環境を提供します

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日中、玄関や掃き出し窓の出入りが自由にでき、散歩や花の手入れ洗濯干しなどができる、開放感のあるホームです。同じ敷地内に病院、老健、保育園が併設されており、ボランティア活動や行事などの交流や協力関係があります。薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士など他職種が連携して入居者一人ひとりに合わせた支援をなされています。掃除や調理など役割をやることを意識され、自らの意欲を高め、活動することでADLの維持・向上に努めております。グループホームの理念に基づくケアを実践するために、その日の職員で行うミニミーティングや毎月開催されるミーティングで振り返りと共有をなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者、ご家族、知り合いの方が安心して過ごせるよう心掛けています。	理念を共有し、実践に繋げられるように、毎月のミーティングで職員間で話し合いを行われています。玄関に職員が目線の高さの位置で掲示をして、目に付くように工夫を行い、日々意識して支援ができるようになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少なく機会は少ないが参加しやすい地域行事には声を掛けていただくことある。老健で開催されるお茶会に参加し地域の方とのふれあいの機会となっている	地域の行事や、同法人のデイケアや老健などでボランティアの慰問や行事がある時には参加を行っています。利用者もデイケアや保育園にボランティアや西瓜や花など季節の収穫物をお裾分けに行かれたりされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャバンメイトの活動に参加し、小中学校の認知症サポート養成講座の講師を務める		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、主に活動報告、認知症関連の情報提供を行っている。	運営推進会議には町役場職員、包括職員、区長、民生委員、入居者、入居者の家族が参加しており、活動報告や事業所で取り組んでいることを報告し、意見をもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加、キャラバンメイトの活動など介護サービス事業所連絡会を通したつながりができている。	町役場職員とは運営推進会議の参加、管理者がキャラバンメイトの活動を通じて関わりがあり、町役場職員から入居者相談などがあるなど、連携及び協力関係がうかがえました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中オープンにしており全スタッフも身体拘束をしない意識を持って、見守りや同行支援を行うなど取り組んでいる。又、スタッフにアンケート調査を行い意識づけを行った	身体拘束、虐待防止に関して、定期的に職員は自己評価を実施して適切な言葉かけや対応などの理解を深めるようになっています。玄関は日中は開けており、管理者が大丈夫と判断された入居者は自由に散歩されたり、不安な場合は安全のために、さりげなく職員が見守りや同行支援を行うなどの対応をなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連づけて勉強会で取り上げ、不適切な介護をしていないか確認している。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業と合わせて研修会がある際は参加する要している成年後見制度は利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、入居時、又は介護保険改訂の時などに説明を行い納得していただいていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議への参加時、行事への参加の時等その都度お話を伺い、申し送りスタッフと情報を共有している	ホームへの訪問時や電話連絡の時に色々な意見を言ってもらえるように声かけなどをなされています。運営推進会議に入居者とその家族に参加してもらい、意見を表せる機会を設けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	課題がある時はその都度ミニミーティングを行い、より良い支援の方法を検討したり業務の改善を行っている。	議題があるときは当日出勤しているスタッフでミニミーティングを行ったり、毎月のミーティングで意見を出しあい、話し合ったりされます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度より人事考課のシステムが始まり、職員の努力が評価されるよう整備されている。職員は目標管理シートを活用し目標達成に向けた取り組みを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整などで外部研修を受ける機会を確保するようにしている。又、法人内研修年に数回行われている。事業所間交流研修を行い、知識とスキルの向上に役立っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回のグループホーム連絡会に参加し情報交換や、勉強会等の活動を行っている。事業所間交流研修ではスタッフの交換研修を行い交流を深めた		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は事前に面談を行い、本人の思いを傾聴します。これまでの暮らしが継続できる支援を一緒に考えます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の望みと本人の思いの折り合いをつけ、橋渡しに努めます。家族との関係が途切れないよう支援します		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を聞き、法人内の居宅サービスやリハビリなども紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で自発的に動かれる機会を大切にして、特に得意分野や希望の活動で力を発揮して頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人にとってのご家族の位置づけを大切にしながら役割を担っていただくことも多く、必要であれば入浴介助にもはいつて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し問題がなければ外出の機会を設けている。ご家族が経営するカフェでの食事や墓参り、帰宅しての昼食など馴染みの場所や関係を保っている	家族に相談し外出の機会を設けたり、家族の同意を得てから入居者が以前に住んでいた家に職員が連れて行ったり、昔なじみの方がホームに来た時におもてなしをなされることなど継続的な交流ができるようになされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しており、状況に応じて気の合う物同士で活動をしたり、居室で一緒に過ごすまた一緒に入浴するなどお互いを支えている		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院時は面会や見舞いに行くなど関係を切らないようになっている。退居されたご家族と連絡をとり、その後のお話しを伺う機会もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望は日常の関わりの中である程度把握できており、可能な限りは意向に添えるようにしたいと考えている。その都度ミーティングを行い希望に添える支援を行っている	日々の関わりの中での会話や表情の観察などを通じて、把握に努めています。何かあればその日に出動している職員間で話し合ったり、毎月の会議の場で話し合うことで思いや意向を職員間で把握し、共有ができるようになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やサービス提供者から情報を聞き取り把握するようしており、入居後も本人、ご家族から日常生活の中で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況を観察し、活動への参加は無理強いしない。一日の過ごし方はその都度相談している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの要望を元に職員の意見を探り入れ計画作成担当者が計画を作成している。定期的なモニタリングやカンファレンスを行い、半年ごと又は、変化のあった際に見直し現状に即したプラン作成している。	定期的なモニタリングやケアカンファレンスを行い入居者や家族の意向を把握し、ミーティングなどで職員間で意見交換を行い、それを基にして介護計画の作成がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出来るだけ分かりやすいように、記入漏れがないように気を付けながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの能力や希望の添いながら、デイケアへのゆのみ洗いや台拭きなどの役割を果たす活動を行っている。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する老健・デイケア・薬局、スーパー等を地域資源と考え、協力を得ながら入居者のQOLの向上に役立っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけがあるならば出来るだけは継続していただくようにしている。ご家族の理解が得られれば同法人の病院がかかりつけとなり連携をとって支援をしている。	かかりつけ医がある方は、職員が通院の支援を行い継続するようになされています。かかりつけ医がおられない方などは、入居者及び家族などに説明し、同意が得られた場合は隣接する同法人の病院をかかりつけ医になされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院と医療連携の契約をしており、最低でも週に一回は看護師がホームを訪問し状態の管理と情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院次は面会を頻回に行い、相談員や看護師との情報収集で状態の把握をしている。退院後の生活を重視したりハビリが行えるよう提案している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関する指針について説明しており重度化した場合には、医師とご家族の間に入りムネテラの機会を作り終末期についての要望を改めて確認し、出来るだけ希望に添うようにしている。	重度化や終末期の対応について「終末期、医療について私の希望」を用いて、本人、家族に説明し、どうしてほしいのかを確認し、それに基づいて対応をするようになされています。実際に重度化した場合は、家族、ホーム、医師で話し合い、チームで支援をなされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練まではできていない。発生時の処置、対応はマニュアルを作成している。管理者への第一報で指示を受け行動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で火災、地震についての昼・夜想定しての避難訓練を利用者参加で行っている。	同法人の併設施設と合同で火災、地震についての避難訓練が行われています。	併設施設との合同訓練に加えて、火災などを想定したホーム単独での職員、入居者合同での避難訓練が行われることが期待されます。

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの輪読を行い、その方に合わせた適切な対応を意識して行っている。	職員にユマニチュードに基づいた支援を行うように努め、随時ミニミーティングや定期的なミーティングで適切な支援を行っているのか、職員間で振り返りと共有が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やおやつ、洗濯、入浴の時間、活動への参加などその都度相談している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや要望に合わせて、時にはスタッフが提案し選択していただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家事活動を行う方にはエプロンを用意し、自分でダンスから衣類を選択して着用されている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの行事食や手作りおやつを提供している。誕生日には本人の食べたい物や家族からの情報で好みの食事を提供している	入居者や家族より好きな物、嫌いなものを聞いて食事の工夫を行っています。職員が声かけをして利用者と一緒に調理や食器の片づけ行ったり、季節の旬の食材や、行事食などを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量のチェックを行い水分も定時に提供している。普通食で提供し、本人の状態にあわせて相談しながら食材を切る、とろみをつけるなど食べやすくしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後おこなっている。自分で口腔ケアが出来ない方には義歯洗浄、口腔スポンジで口腔清掃行っている。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせたり、表情味ながらトイレの声掛け、誘導を行っている。	出来るだけ自然排便をしてもらえるように、薬に頼らず、食物繊維を多めにとってもらうなど工夫を行っています。必要な方には食事前に声かけを行ったり、ソワソワするなどしているときに、さりげなくトイレの確認、誘導などを行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後にヨーグルトや便秘の方には冷たい牛乳を提供している。硬便の方にはイージーファイバーを毎朝提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添うようにしている。	清潔を保つために一応のローテーションはあるが、本人の希望があれば、日程の変更や毎日の入浴にも対応をなされています。時間も勤務の調整を行うなど、できるだけ本人の希望に沿うように努力されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて午睡の時間を設けている。生活パターンがある程度できており、夜間は眠れていることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カレンダーで確認を行っており、それぞれ理解できている。必要な方には居宅療養管理を薬局と契約をして頂いている・服薬拒否がある場合は薬剤師にアドバイスをもらい工夫している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動はその方の能力に合わせ参加を促し、園芸活動やおやつ作り、調理などいきいきと過ごす時間を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ファミリーレストランやカフェ、スーパーへの買物支援、病院の売店の利用、その日に食べたい饅頭の購入に同行して頂いたり、外出の際に道の駅に寄ったり、外出を楽しめるよう工夫している	職員が同行するなどの支援を行って病院の売店やスーパーなどへ買い物に行ったり、外へ散歩に行かれたりしています。家族に協力してもらい外食などを支援なされています。	

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者の預り金があり、外出時などに使用している。病院の支払いをしたいなど訴え時は同行して入居者本人が支払をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ポーチには入居者と植えた花々が美しく、玄関には生花や折り紙を飾り季節を楽しめる環境を提供し日向ぼっこができるソファの位置や他者と離れて過ごせる場所も設けている	共用の空間の飾りつけなどはシンプルで家庭的な雰囲気がありました。玄関口には季節の花が咲いており、ソファが設置されて落ち着いて過ごせるようになされていました。	玄関が空気が抜けにくい造りになっている上に入居者や訪問者・家族・職員の出入り口となっているため、湿気や空気がこもりがちな箇所となっています。換気などに配慮した工夫を望みます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の両端のソファを活用し少人数で過ごしたり日向ぼっこや、昼寝をされる方もいる。互いの居室を行き来して差し入れの飲み物やお菓子を楽しまれる機会もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品を持ち込んで頂いたり、電化製品やテーブル等持ち込まれている方もいる。壁に家族写真が貼られ、記念の品が置かれこれまでの生活を感じることができる	居室にはタンスや写真など家族との思い出の品々が持ち込まれていました。掃き出し窓の鍵も開け閉めが自由にできるようになっており、庭に自由に出入りできるようになり、自分の花の手入れや洗濯物の干しなどができるようになされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カウンターテーブルは低く、分かる方には施設できるトイレの使用やベランダに洗濯が干せるようにしている。排泄後のパットの交換もできる人にわかるように便座横に保管されている		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グリーンライフウイ

作成日 平成 31年 4月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	併設施設との合同訓練に加えて、火災などを想定したホーム単独での職員、利用者合同での避難訓練を行うことで、全職員に防災意識を持たせなければならない	全職員が防災意識を高め、状況に応じた対応ができる	併設施設合同防災訓練参加・ホーム単独防災訓練、通報訓練、職員緊急連絡訓練	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。